



DSO参加機関の公開イベントご案内

◆ 宮崎大学 ◆

『第2回 宮崎大学男女共同参画シンポジウム

～みんなで語ろう！宮崎大学が考える

ワーク・ライフ・バランス～』

【日時】2012年1月6日(金) 13:10～15:30

【場所】宮崎大学 農学部講義棟L206(木花キャンパス)

入場無料

【主催】国立大学法人 宮崎大学

【問合せ・申込先】宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室

URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>E-mail info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp

電話・FAX 0985-58-7508

昨年度も開催し、好評を得たシンポジウムの第2回目です。昨年に引き続き、本学における男女共同参画推進へ向けた取り組みやその成果について報告し、本学教職員一人ひとりの働きやすい環境づくりについて考える場となればと考えています。

今回は、本学部長による取り組み報告に加え、「女性の教員や管理職の増員に向けた

方策」と「男女共同参画に対する教職員の関心を広げるための方策」などをテーマとしたパネルディスカッションで、本学部長と教職員が共に語ります。

◆ 産業技術総合研究所 ◆

若手博士人材の育成に関するシンポジウム

「イノベーションスクール～若手博士人材が

日本を元気にする」

産総研では平成20年度より産学官連携の場を生かして、若手博士人材の育成に取り組む「産総研イノベーションスクー



ル」を実施してきました。本シンポジウムでは、これまでの取り組みを契機として、産学官からの広い立場の皆様と、今後の日本の高度イノベーション人材、若手博士人材の育成と活用を考える良い機会にしたいと思っております。お誘いあわせのうえ、是非ご参加いただけましたら幸いです。

【日時】平成24年1月17日(火)13:30～

【会場】日経ビル6階 日経カンファレンスルーム・日経大手町セミナールーム2(地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結)

【問合せ・申込先】人材育成シンポジウム事務局

TEL: 03-6812-8693 FAX: 03-6812-8649

E-mail: inn-s_sympto@m.aist.go.jp

下記ウェブサイトからお申込下さい。(締切:1月6日(金))

【詳細】<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/sympo/index.html>

◆ 筑波大学 ◆

「平成23年度 筑波大学重点公開講座～現代のビジネスパーソンの実践的メンタルヘルス対策～」

男女共同参画推進室では、来月開講予定の、人間総合科学研究科 産業精神医学・宇宙医学グループ講座に協力しております。

【テーマ】「マネジメントからみた実践的職場のメンタルヘルス対策-未熟型うつへの対応を含めて-」「職場のメンタルヘルス問題-法律相談-」「災害対応と職場のメンタルヘルス支援-リスク管理の実践方法-」「究極のストレスを克服する-宇宙飛行士のストレスマネジメント-チリ落盤事故の事例から-」「ワークモチベーションとストレス-ワークライフバランスを考える-」「『捨てる技術』と『心の整理』」「中年世代まで遷延するひきこもりと不応症-現代の『ひきこもり』事情-」

【日時】1/11(水)18:30～20:00、1/18(水)18:30～20:00、1/25(水)18:30～20:00、1/28(土)13:00～17:30

【場所】筑波大学 東京キャンパス文京校舎 120号室(丸ノ内線 茗荷谷駅より徒歩2分 東京都文京区大塚3-29-1)

【対象者】一般(どなたでもご参加いただけます)

【定員】20名(事前申込不要、各講座1日だけの参加も可能)

【詳細】<http://www.geo-wlb.tsukuba.ac.jp/node/2099>

お役立ち情報

◇ 国立女性教育会館 ◇

男女共同参画プログラム(第2回)

「今に生きる私たちに、ココ・シャネルからの贈り物

～いつまでもチャレンジする人生」

女性の社会参画に向けたチャレンジを応援するため、2回目はシャネルの生き方とその時代背景について学び、女性がチャレンジすることの意味を考えるとともに、高齢社会におけるファッションをユニバーサル・デザインという観点から学び、自分らしく装うということについて考えます。

【日時】2012年1月21日(金)～22日(土) 1泊2日

【場所】国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)

【主催】独立行政法人 国立女性教育会館

【詳細】※定員、日程や所要経費はこちらでご確認ください。

<http://www.nwec.jp/jp/program/point/2011/page03i.html>

◇ 愛媛大学 ◇

第2回 四国女性研究者フォーラム

「若手の活躍促進～四国のマリー・キュリーを育てよう～」

四国における女性研究者の育成を地域ぐるみで応援するために、四国にある国公立大学等の高等教育研究機関、企業、市民の方々にご参加いただき、第2回「四国女性研究者フォーラム」を開催します。

【日時】2012年1月27日(金)13:00～16:30

【場所】愛媛大学南加記念ホール(城北キャンパス)

【主催】国立大学法人愛媛大学

【共催】香川大学、徳島大学、鳴門教育大学、高知大学

【詳細】

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/news/detail.html?rec=96>



DSO新規加入機関のお知らせ

◆ 国立大学法人 弘前大学 ◆

弘前大学(学長 遠藤正彦)は、学問の領域を幅広くカバーする人文学部、教育学部、医学部、理工学部、農学生命科学部の5学部と、独立研究科である大学院地域社会研究科を含む7研究科より成る、学生総定員5,800名を擁する総合大学です。H22年度より、科学技術振興調整費にて提案課題『つがるネッサンス！地域でつなぐ女性人材』に取り組んでいます。(平成23年12月9日加入)

【所在地】青森県弘前市文京町1番地 【ウェブサイト】男女共同参画推進室 <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/tsuga-ru/>

シリーズ: DSO参加機関のご紹介 ⑥

*** 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 ***

【機関概要】

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構(NARO: National Agriculture and Food Research Organization、理事長:堀江武)は、農業、食品産業、農村の健全な発展のための研究開発をおこなう、日本最大の機関です。名称から農作物だけの研究機関だと思われるかもしれませんが、実は研究分野は多岐にわたり、食品の加工・流通・消費に関わる技術、畜産に関する技術、動物衛生、農村や水路などの工学技術、農業経営の発展を目指す人材の育成なども担っています。

拠点は本部および研究所の多くは茨城県つくば市にあります。また、南北に細長い日本の多様な気候風土にあわせた農業技術の開発や、地域ならではの農業発達を促すために、全国各地にも研究所や支所がおかれています。

職員数は、2,833名で、研究職員は1626名(うち女性251名)、事務職員は636名、技術専門職員562名が所属しています(平成23年4月1日現在)。

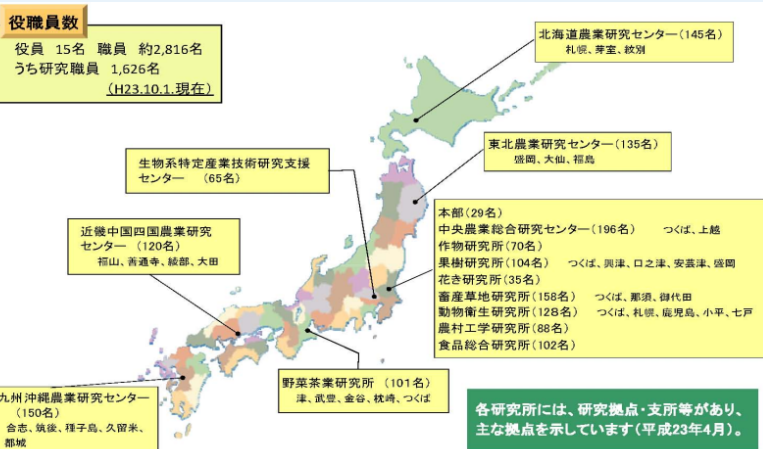
【ダイバーシティへ、男女共同参画への取組】

理事長を本部長とする直轄の男女共同参画本部が、「多様な人材が、それぞれの条件のもとで、持てる力を十分に発揮して業務に取り組み社会貢献を果たすことができる職場環境の創造」という農研機構男女共同参画宣言に掲げた目標を達成するため、平成21年5月に設置され、また、意欲ある女性人材を積極的に活用し、ワークライフバランスのとれた業務の活性化を進めることを目的とし、同じく「女性研究者支援委員会」「女性研究者支援室」も設置されています。これらの活動を支えるものとして、「男女共同参画行動計画」「女性研究者支援基本方針」の他に、第2期の「次世代育成行動計画」も策定されています。

DSOの連携を通じ、全国での取組をさらに推進して行きたいと思っております。お近くの農研機構の研究所、拠点がある機関との連携についても、ご相談下さい。今後ともよろしく願いいたします。

農研機構は、性別に関わりなく、職員がそれぞれの条件下で持てる力を十分に発揮して研究や業務を遂行し、社会貢献を果たすことのできる職場環境の創造を目標に、男女共同参画を推進します。

【本所所在地】茨城県つくば市観音台3-1-1
【ウェブサイト】<http://www.naro.affrc.go.jp/>



イベント報告

◆ 産業技術総合研究所「介護に関する勉強会」報告 ◆

演題「親が元気なうちに学んでおきたい介護の知恵」

講師 太田差恵子氏（介護・暮らしジャーナリスト、NPO法人パオッコ理事長）

2011年12月12日(月) 産総研つくばセンターにて「第9回介護に関する勉強会」を開催しました。親が元気な内は、その日を想像したり何か準備することは中々難しく、また避けてしまいがちです。しかし、突然やってくるかも知れない介護から、仕事や家庭への影響を最小限にとどめるには、事前準備が重要になります。本講演はこれから介護を迎えるであろう方々や、漠然と不安を抱えた方々に向け、何から実践すべきかを学ぶために企画されました。

講師の太田差恵子氏は、介護・暮らしジャーナリスト、またNPO法人パオッコ（離れて暮らす親のケアを考える会）理事長として、介護に関する講演や執筆活動をされています。講演では先ず、長寿化など介護の長期化が進むなか「介護は一人では無理」と言う考えに立ち、親を中心に子・親族・地域住民・行政・専門職でチームを組み上手に分担することで、介護を抱え込まないことが大事とお話がありました。そして、介護を気持ちだけで乗り切るのは難しい、感情も大事だが冷静着実なビジネス感覚で、資金プランや様々なサービスをうまく取り入れるための情報収集などを行い、介護離職などせずに仕事を続ける覚悟が絶対必要とのことでした。



何度も繰り返されたのは、親や親族との対話・コミュニケーションの重要性でした。親がどのような老いを望んでいるかを知ることは、親の幸せとともに、親族間のトラブル回避にも大事です。親の異変のサインを見逃さないことで早期対応にもつながります。また、太田氏は数々の経験からお金と介護が密接であると考え、ファイナンシャルプランナーの資格を取得されていますが、介護資金は「親本人の資金が基本」と言う立場から、中々切り出しにくい親の保険や資金の整理把握が大事とお話もありました。パオッコなどの活動を通して得た豊富な事例を交えながら、具体的でわかりやすい内容が印象的でした。

アンケートでは、「介護は親の資金で、と言う言葉に安心しました」「実例が多く具体的で、情と理が兼ね合って勉強になった」「親の本音を考え自分を大切に、と言う言葉が心に残った」「早めに話しをするのが大事だと分かってよかった」などと言った意見が寄せられました。

会場には約130名（内10名はDSO機関から参加）、11拠点へのTV会議中継を含めると210名以上が本講演を聴講しました。今回の講演が介護準備の実践につながるきっかけになればと考えます。（産総研 長久保）

ダイバーシティ・サポート・オフィスのご案内

男女共同参画の取り組みを進めている研究教育18機関では、ダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)を組織し、ワークライフバランス支援や意欲触発支援のノウハウを蓄積・発信・共有しております。「DSO参加機関のイベントのご案内」のような、イベント相互参加もそのひとつです。DSO活動についてのお問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ。

*DSOメンバー(参加順): 産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業環境技術研究所、千葉大学、筑波大学、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、農業生物資源研究所、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、弘前大学

編集後記

12月1日午後、『APEC女性と経済サミット及び経済活動における女性のエンパワーメントについて聞か会』に出席しました。「APEC女性と経済サミット(9/13~16サンフランシスコ)」に参加された政務官ほか、クリントン國務長官による基調講演中の『ゴールドマン・サックスは女性労働参加の障壁を取り除くことが、米国のGDPを9%成長させるというレポートを発表しています。我々の国にも障害が依然として残っていることを認めます。ユーロ圏では成長が13%見込まれますが、その実現が必要でしょう。そして、日本では16%の見込みです。(内閣府仮訳)』が印象に残ったと語っていました。我が国では女性の経済社会参画が進んでいないことを再認識しました。(産総研 澤田)

□ ご意見や掲載希望記事・企画がありましたら、遠慮なくDSO事務局までご連絡ください □